

第4章 都市交通の目標

激甚化・頻発化する自然災害や、2050年脱炭素社会の実現、また、新技術の進展などの社会経済情勢の変化への対応が求められています。

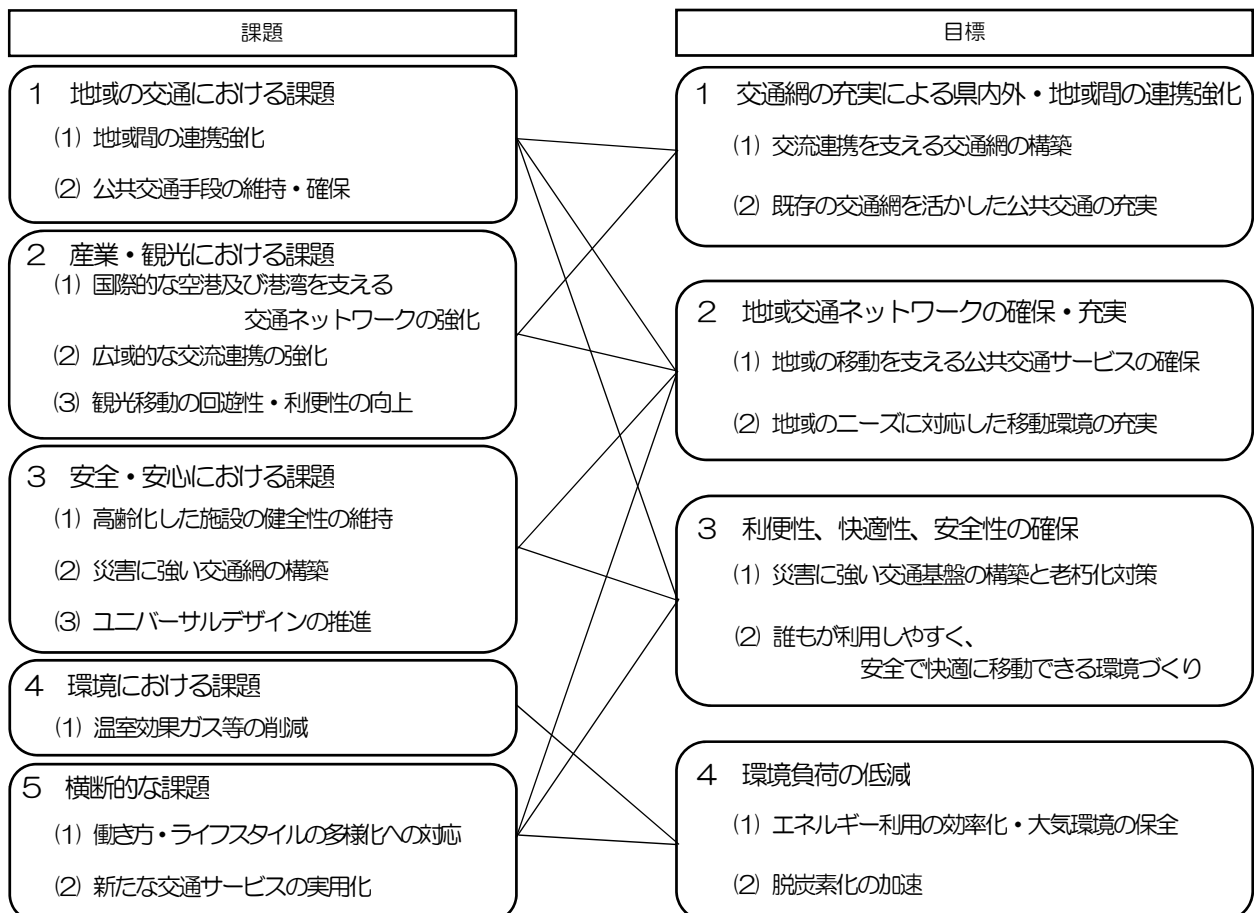
特に、高齢化の進行や人口減少に対応し、商業や医療・福祉等の都市機能を集約したまちづくりを進める上で、集約した都市を中心とした利便性の高い交通ネットワークの確保・充実が求められます。また、テレワークなどの普及に伴う働き方やライフスタイルの多様化により、居住地周辺での移動ニーズが高まっており、こうした需要への対応も必要となっています。

そこで、地域の個性を伸ばし、活力と魅力あふれる強靱な県土づくりに向けて、SDGsの理念を踏まえ、都市交通の目標にこれまでの「交通網の充実による県内外・地域間の連携強化」、「利便性、快適性、安全性の確保」、「環境負荷の低減」に加え、「地域交通ネットワークの確保・充実」を新たに設定しました。

(図4-1)

神奈川の都市づくりを支える鉄道や道路などの交通網の整備に引き続き取り組みながら、あらゆる人が安全・安心に、自由に移動でき、コミュニティの活性化を支える都市交通の実現をめざします。

図4-1 都市交通の課題と目標の関係図



SDGs (持続可能な開発目標) との関係について

SDGs (持続可能な開発目標)は、2015(平成 27)年 9 月の国連サミットで加盟国の全会一致で採択された、2030 年までに持続可能でよりよい世界をめざす国際目標です。また、SDGs は 17 のゴールと 169 のターゲットから構成されています。



(出典) 国際連合広報センター

本県の取組について

県では、総合計画「かながわグランドデザイン基本構想」の基本理念に、「いのち輝くマグネット神奈川」を掲げており、その取組はSDGs の理念と軌を一にするものです。こうしたことから、県は「基本構想」の方向性に沿って政策を推進することとで、世界がめざす持続可能な社会の実現に貢献するとともに、いのちを輝かせ、人や物を引き付ける魅力を持った神奈川の実現に取り組んでいます。

本計画とSDGs の関係について

本計画の上位計画である「かながわ都市マスタープラン」には、次の世代に引き継げる持続可能な魅力あふれる県土・都市づくりをめざすため、SDGs がめざすゴールのうち、「9 産業と技術革新の基盤をつくろう」、「11 住み続けられるまちづくりを」を中心として、理念を共有しています。本計画においても、こうしたSDGs の理念を踏まえ、都市交通の目標を設定し、実現に向けた取組を進めます。

1 交通網の充実による県内外・地域間の連携強化

(1) 交流連携を支える交通網の構築

持続可能な魅力あふれる県土・都市づくりに必要な鉄道網や道路網の整備を進めることで、県内の都市圏域間や県外との交流連携を支える交通網の構築をめざします。

(2) 既存の交通網を活かした公共交通の充実

既存の交通網のシームレス化、先進技術の導入や、交通結節機能を強化するなど、利便性の向上を図り、公共交通の充実をめざします。

2 地域交通ネットワークの確保・充実

(1) 地域の移動を支える公共交通サービスの確保

高齢化の進行や人口減少に対応し、商業や医療・福祉などの都市機能を集約したまちづくりを進める上で、バス・タクシーなど既存の公共交通に加え、様々な民間輸送サービスを活用し、地域を中心とした利便性の高い交通サービスの確保をめざします。

(2) 地域のニーズに対応した移動環境の充実

いのちが輝き誰もがその人らしく暮らすことのできる地域社会を実現するため、ICTの発展などにより導入が期待されるMaaSやAIオンデマンド交通、自動運転技術などの新たな交通サービスの活用を図りながら、まちづくりにあわせて地域のニーズに対応した移動環境の充実をめざします。

3 利便性、快適性、安全性の確保

(1) 災害に強い交通基盤の構築と老朽化対策

大規模災害時に救援活動や復旧活動を担う道路の機能強化や、複数経路の確保により、災害に対して強靱な交通基盤の構築をめざします。

また、道路施設の老朽化に起因する事故を防ぎながら、維持管理・更新にかかるトータルコストの縮減と平準化を図る、効率的・計画的な維持管理をめざします。

(2) 誰もが利用しやすく、安全で快適に移動できる環境づくり

高齢化の進行・免許返納者の増加による移動制約者の増加や、訪日外客や外国籍の県民の増加に伴う交通ニーズの多様化等に対応するため、誰もが利用しやすく安全・安心に移動できる環境づくりをめざします。

また、日常生活や観光の足となる自転車の走行空間の整備や、拠点駅周辺などにおける安全でウォーカブルな歩行空間の確保をめざします。

4 環境負荷の低減

(1) エネルギー利用の効率化・大気環境の保全

持続可能な資源循環型社会を実現するため、交通需要マネジメント⁴⁵による自動車利用から公共交通利用への転換や体系的な道路網の形成による交通のボトルネックの解消による交通の流れの改善により、エネルギー利用の効率化を図ります。

また、大気環境を保全するため、引き続き自動車排出ガス対策等に取り組み、交通分野における環境負荷の低減をめざします。

(2) 脱炭素化の加速

電気自動車や燃料電池自動車など次世代自動車の普及に加え、環境負荷の少ない自転車やグリーンスローモビリティ等の活用促進、モーダルシフト⁴⁶による環境にやさしいグリーンな物流の実現などにより、脱炭素社会の実現をめざします。

⁴⁵ 交通需要マネジメント … 車の利用者の交通行動の変更を促すことにより、都市や地域レベルの道路交通混雑を緩和する手法。円滑な交通流の実現により、二酸化炭素排出量の削減といった環境の改善、地域の活性化が図られる。

⁴⁶ モーダルシフト … トラック等の自動車で行われている貨物輸送を環境負荷の小さい鉄道や船舶の利用へと転換すること。